

# 新藤信夫市政ニュース

令和2年12月

Vol.31

さいたま市議会自由民主党  
議員団大宮区西支部  
TEL 647-7713  
FAX 647-7726



へご挨拶

新藤信夫

皆様には、日頃から大変お世話になっております。新型コロナウイルス感染症が広がる中、皆様はどのようにお過ごしでしょうか。

去年の12月に中国武漢で発生した新型コロナウイルスは、世界を席卷し第3波が到来したかの勢いで感染者が拡大しています。今後の感染者数の動向については、11月19日の記者会見で西村経済再生相が「感染がどうなるかについては、本当に神のみぞ知る」と語った言葉に象徴されるように全く予想ができない状況になっています。

さいたま市においては、11月24日現在で累計1206人の感染者が報告されて、11月に入ってから増加しており、東京都の感染者が増加すると一週間後には、さいたま市の感染者に同じような割合で増加して来ると言われていることからすると、今後さいたま市でも12月初旬にかけて、感染者が大幅に増加することになります。

大宮の繁華街では、度々クラスターが発生しています。夜の街での感染防止対策は、よくやっている店もあります。私も市長とともに視察をしましたが、7/27



関口昌一自民党参議院議員会長と新型コロナ及び経済政策について意見交換

市長視察、8/7知事視察、アクリル板の仕切りの設置やフェイスシールド着用、入室時の検温、手指の消毒等ができていない店がほとんどでした。しかしながら、まだ対策が行き届かない店もあるようです。

さいたま市では、PCR検査の実施を民間検査会社の協力を得て増強しており、1日に1000件の検査が可能となり、結果は翌日に出ます。感染者には、1時間ほどかけて発症2日前からの症状や行動の確認を行う、病状の判定、感染経路の推定、接触者の確認を取り、感染者のその後の入院・ホテル療養・自宅療養の判定をしています。

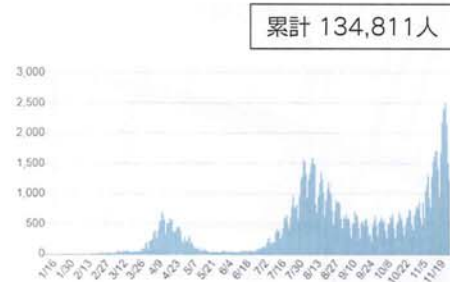
しかし、感染経路をたどることは大変難しく、感染経路がわかる人は約5割超となっています。感染経路がわかっている人の内、家庭内感染が5割近くを占めていることからすると、家族の誰かが知らない間にウイルスを持ち込み、食事や会話をすることによって感染を広げているということになります。年代別感染者は、30才〜50才代の割合が高いのですが、重症者は60才以上が多く、高齢者ほど重症化しやすいと考えられます。個人ができる感染対策は、いくつも示されていますが、やはり重要なのは**マスク・手洗い**が重要です。その他、**3密は避ける**、最近では小池都知事が、**5つの「小」**として、会食は小人数で、小一時間を目安に、小声でおしゃべり、料理は小皿に取り分け、小まめに換気と呼びかけています。これらを守れば、かなり感染は防げると言われています。

例年ですと、年末から年始にかけて多くの行事が行われますが、今年**は十日市・十二日市は中止**(神事は行われる予定)、初詣も混雑を避けて分散して2月位までにお参りすることが求められています。また、**成人式は午前と午後の2回に分けて行い**、ソーシャルディスタンスを確保することになりました。

少し寂しい年末・年始になりそうですが、感染拡大防止を念頭に行動していただき、早期に安定した日常生活を取り戻せるよう、皆様とともに頑張ってくださいと思います。  
良いお正月が迎えられますよう、皆様の健康をお祈りいたします。

## 陽性者数の推移(国・埼玉県・さいたま市)

【国：厚労省HP 11月19日0時現在】



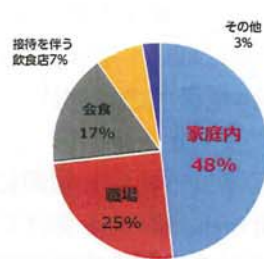
## さいたま市: 当市HP 11月24日時点

累計 1,206人



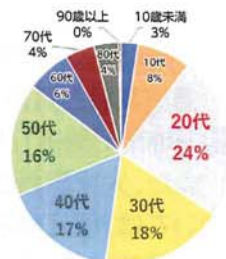
## 感染経路内訳

(10/18~11/17)



## 年代別内訳

(10/18~11/17)



## 大宮盆栽美術館 拡張計画

平成29年に開催された「第8回世界盆栽大会inさいたま」は、国内外から多くのお客様がお越しになり、盆栽の魅力を一層強く発信する機会となりました。また、大宮盆栽村や大宮盆栽美術館に多くのお客様がお越しになったことは、さいたま市にとってたいへん誇らしいこととなりました。

さて、この大宮盆栽美術館は、盆栽の名品を数多く展示する素晴らしい施設ですが、残念ながら、大宮盆栽村のおもてなしの施設、例えば盆栽づくりの体験場所や飲食できる施設、また、研修施設がありません。

言うまでもなく、盆栽は世界に誇るさいたま市の文化であり、市内に外国人を招くことができる重要な観光資源です。盆栽への関心が高まり、力強い盆栽振興の取り組みが必要である今こそ、隣接する自治人材開発センターの敷地(県有地)を有効活用し、さいたま市と埼玉県の共同事業である盆栽関連施設の充実に取り組む好期であり、その計画が進められています。



# 9月議会 代表質問から

## Q1. さいたま市のSDGsと環境教育について

SDGs未来都市プロジェクトは、新たな総合振興計画の中で、環境教育の重要性をしっかりと捉え推進していただきたいと思います。

国際社会では持続可能な社会の実現に向けて、気候変動、貧困、健康の福祉、経済とともに生物多様性の損失も重要な問題と捉えられています。

生物多様性は、生き物(ウイルスから人間を含む哺乳類)の様々な関連の中で、生き物が命をつないで行くことで、私たちの暮らしにおいて食料や水、大気や気候の安定など生物多様性の恵みによって支えられています。このバランスが崩れると自然からの十分な恩恵が受けられなくなり、人類の存亡にも影響が及ぶと言われています。

生物多様性を保全して行くことは、持続可能な社会を実現する上で不可分であり、地域を越えて取り組むべき課題と考えています。

さいたま市がSDGsを促進するに当たり、生物多様性の保全や自然環境教育を積極的に盛り込んで行くことが重要と考えますが、市長の考えを伺うとともに、教育長の見解もお伺いしたいです。

### A. 市長

本市では、これまで、市民の生物多様性に対する理解を深めるため、環境施設での自然観察会などを通じて、環境教育の充実に努めてまいりました。

生物多様性の保全につきましては、SDGsの観点からも今後ますます重要となることから、今定例会で御審議をお願いしている総合振興基本計画におきましては、重要戦略に位置付けるとともに、「環境」の章において、環境への関心や学習意欲を高め、行動につなげていくための環境教育の充実に盛り込んでおります。

人と自然が共生する緑豊かな美しいまちづくりに向けて、住むことを誇りに思えるさいたま市の実現を目指し、豊かな自然環境を保全活用していくために、環境教育の充実や生物多様性の保全を積極的に推進してまいりたいと考えております。

### A. 教育長

今般のコロナ禍で、私たちは自然共生の真の意義と向き合う必要性を突き付けられました。3月からの学校の臨時休業で、子どもたちは当たり前前の生活が奪われました。その不自由で辛い思いの中で、自分達の身近な様々な問題について考え、例えば、美しい空気や水、豊かな食料

資源を供給してくれる生物圏を維持する生態系の重要な役割について、再認識することとなりました。

私達は、「人生100年時代を豊かに生きる『未来を拓くさいたま教育』の推進」を教育行政の基本理念に掲げております。SDGsの達成に向け、多種多様な生物との共生や社会における多様性を認め繋いでいくための力、さらには、複雑で予測困難な社会において、地球規模での視点で課題と向き合い、新しい価値を生み出し自ら行動できる力の育成を目指してまいります。

## Q2. 大宮のレガシーをいかに残すか

中山道は、県内に入って2番目の宿場として蕨宿があり、10番目の本庄宿まで県内には9つの宿場がありました。

中でも大宮・熊谷・深谷宿は大きな宿場であったと言われています。県内外を問わず、多くの宿場を歴史的資産として捉え整備が進められて、当時の面影を偲ぶ記念物等が数多く保存されています。

そんな中であって大宮宿は、中山道の宿場であることを示す石碑や本陣・脇本陣跡を示す案内板すらありません。

小学校では、郷土の歴史を学ぶ授業の中で、古くは氷川神社の門前町として形成され、江戸時代には中山道の宿場町として栄え、明治18年に大宮駅開業以降は鉄道のまちとして大いに発展を遂げていると教えてもらいます。

私たちも歴史を引き継ぐものとして、宿場町の歴史を残し引き継いで行く必要があると思います。

鉄道の街としてのレガシーを含めて、大宮GCS(グランド セントラルステーション)構想の中で位置付けて整備する努力をお願いします。

### A. 副市長

大宮は、議員の言われる通り、発展し現在に至っております。大宮の歴史的価値を十分認識したうえで継承していくことは大変重要なことであるとと考えております。

現在、検討を進めております大宮GCSプラン2020(案)におきましても、中山道の宿場町や鉄道のまちといった歴史的価値について、まちづくりに活用すべき大宮の要素として位置付けているところであります。

ご指摘の歴史の継承に関する整備につきましては、石碑や案内板などの設置に向けて、地域の皆様や関係機関と協議をしてみたいと考えております。

## 大宮駅西口周辺まちづくり

大宮駅西口周辺地域が大宮GCS構想の一角に加わり、今までに続けてきた事業に加えて再開発事業が本格化して来ました。

大宮ソニックシティ北側 第3-B地区では、建物の解体工事が終わって、来年からは建築工事に取りかかります。

道路整備も進み、第4地区内の道路はほぼ完成し、ここから南進して、旧日赤前で国道17号に交わる上落合桜木線も用地買収を行っています。

また、大宮駅西口広場から鐘塚公園前に抜ける大宮停車場大成線については、地元商店街からの要望を受けて、一方通行化(西方向)と歩車道の段差解消のための社会実験を実施中です。

### 市街地再開発事業

#### ■大宮駅西口第3-B地区

市街地再開発事業  
平成 23年 4月 準備組合設立  
平成 27年 9月 都市計画決定  
平成 29年 3月 組合設立・事業計画認可  
令和 元年 11月 事業計画変更認可  
令和 2年 2月 権利変換計画認可  
令和2~5年度 解体、施設建築物工事(予定)

#### ■大宮駅西口第3-A・D地区

市街地再開発事業  
平成 25年 3月 準備組合設立  
平成 30年 11月 都市計画決定  
令和 2年度 組合設立・事業計画認可(予定)

#### ■大宮駅西口第3-C地区

平成 30年 1月 まちづくり勉強会発足  
令和元年度~ 通常総会・まちづくり勉強会  
令和 2年度 通常総会、まちづくり勉強会予定

### 道路整備事業

#### ■上落合桜木線整備事業

平成 5年 7月 都市計画決定  
平成 30年 11月 都市計画(変更)決定  
平成 31年 3月 事業計画認可  
令和元年度 用地買収開始  
令和 2年度 用地買収等

#### ■大宮停車場線

一方通行化整備事業  
平成30年度 ワークショップ開催(2回開催)  
令和元年度 ワークショップ開催(2回開催)  
令和2年10月9日 第5回ワークショップ・交通社会実験について  
11月10日~16日 社会実験(実施中)  
令和4年度 道路再整備工事

